主催団体特別賞

「日本人と友達になるには」 カン リン (官 琳) Ms. Guan Lin (中国 信州大学 大学生)



わたしは大学生です。中国の瀋陽から来ました。現在わたしは日本人の友達が沢山います。 ところが大学に入学したばかりのころは、日本人の友達が全然できませんでした。そのことについ て話したいと思います。

わたしは父の影響を受け、小さい時から日本にあこがれていました。高校は全寮制で、外国語は日本語と英語を学ぶ所に進学しました。大学に入学する前のわたしは、日本人の友達に囲まれて楽しく勉強している自分を想像していました。

しかし入学してみると、現実はわたしの希望とはまるで反対でした。実際に大学での生活を始めてみると、日本人とは友達になるどころか、声もかけにくい状態でした。どうしてこうなのでしょう。わたしはとまどい、留学生の先輩たちに聞いてみました。先輩たちが言うことには、「日本人と友達になることは考えられないよ。まあ向こうもそう思っているかもしれないけどね。日本人との間には何か分からないけど、壁みたいなものがあるよ」ということでした。そしてわたしは日常生活の中で留学生だけで固まるようになり、日本人の友達が一人もできませんでした。がっかりしたわたしは、夢が消え失せ、元気がなくなってしまいました。

わたしは、日本で切ない気持ちになっていることを、電話で中国にいる父に伝えました。すると父は、「何事も諦めないことが肝心だ。私もお前のお母さんを諦めなかった。だからお前がいるんじゃないか、日本人の友達を作る努力続けなさい!」とわたしを諭しました。父の話を聞いて、わたしは諦めずに頑張ろうと思いました。せっか〈留学して来たのに、日本人の友達を作らなければ、留学の意味がないじゃないかと、あらためて考えました。わたしは日本人と積極的に接する気持ちで、休日を利用したホームステイに挑戦しました。日本の生活・文化に触れ、日本のことを理解したい、そうすれば日本人の友達を作ることもできると思いました。ホストファミリーは、40代後半の夫婦と女子高校生の姉妹でしたが、わたしを暖か〈受け入れて〈れました。わたしは素敵な時間を過ごさせていただき、日本のことを身近に感じました。

友達を作るには、日本人の輸の中に入るのが一番良いと思いました。大学にはちょうどわたしの得意なバレーボールのサークルがあったので、入りました。サークルの中で留学生はわたし一人しかいませんでした。みんな外国人のわたしに興味津々な様子でした。わたしも嬉しくて、一生懸

命母国のことをみんなに伝えました。話しもだんだん盛り上がって、毎回楽しく過ごしました。サークルの後はいつもみんなでご飯を食べに行きました。食後の料金計算は皆、割り勘でした、中国には割り勘という文化がないので、最初はとても驚きました。男も女も同じ金額を払うので、日本はとても平等な国だと思いました。

その内に周りの日本人が声をかけてくれるようになりました。そして声をかけてくれる人はだんだん多くなっていきました。ある時のこと、同じ授業を取っている人から「隣に座ってもいい?」「友達になってもいい?」と言われました。その時、わたしは日本に来て初めて達成感を感じることができました。時間が経つにつれて、わたしには日本人の友達が沢山できました。わたしたちは共に笑い、共に頑張る仲間になりました。ついにわたしは日本人の中に溶け込むことができたと思いました。

ところで、最初のころのわたしはどうして友達ができなかったのでしょうか。それは、わたしの方から 積極的に日本人の中に入って行かなかったからでしょう。そうです。自分から日本人の中に入る 努力をしてこそ、友達ができるのです。その努力をすることが必要なのです。日本人を家に例えると、 家の壁が高くて、立派で、なかなか中に住んでいる人を見ることができません。しかし一度門をくぐ って中に入ると、いろんな花が咲いていて、とても豊かな、居心地のいい家です。

今、わたしは全然寂しくありません。日本人と友達になるのはそんなに難しくないと思います。割り勘の計算に慣れさえすれば、実は意外と簡単なんですよ。「良い垣根が良い隣人を作る」と言いますが、友達の間に壁は要りません。一人でも多くの留学生、そして日本の学生にも、外国人の友達を作ることのすばらしさを教えてあげたい、そうわたしは思っています。そして日本に留学してからこそ経験できたこと、出会った人々、得たすべてのものを大切したいと思います。これこそわたしの宝物です。

ご清聴ありがとうございました。